



尾上多見藏

中村駒之助

三井章郎

淺尾大吉

尾上梅朝



會通

今昔の世の中... (Vertical handwritten text in a columnar format, likely a diary or record.)



春色梅兒與
 美第四輯全
 本三卷
 天保四癸巳陽春發行之記

書房文永堂上梓

春色梅兒與

美第四輯全

本三卷

天保四癸巳陽春發行之記

柳川重信畫圖

柳川重山畫圖

子中教

...

...

...

...

狂刺亭

萬永春の誌







いさうと実出り 丹ハヤク久しのお松を果能くで違ひ
ア下は居や 下イ今少一 意用がト 近知を以て成
一け盗人 けエあそく奴ごうぬかお彦で丹次郎が日
新張しける 今の秘美留山と入引ありて引ておひ
小物に家のゆきおきとわきど 合子の行及主人の
判と偽しき罪サア一断すうせおきとまじまじあり
ありともひ 吉主とひくも又日く之日下くもや
月わがり 是をもあの人室の合のと留あはておひく様

合河節うら 海舟もも新しきけや戸の足下
欠也を又四郎 組丹丹次あうそふとろに思八が丹
此を以て例し 一の意を為せし何張するのて新中
組合ぬ先回せおしサア又おきとらん意を以て丹は家
が頼みとらう 一とく二とくはちあまうて欠也二人
そまことんをより お糖六を出 禁お兄イさん丹さんおは
我はまをいませんうさうすつこのをさるまは下流
すまがお由門へ出る向ふの繩をた今欠也一と五

神と彼等八が珍がみ後ほんで投せしる事の甚しき

○そめく五甲印とりんん丹出うかきるにひる

世家の書記松を糸との人悪漢とて丹出多か

前の書家唐琴屋の鬼を糸とて多し人丹出事と

ぶぬしてまのせまとて一忽ちそのお成押つが

借金をも外を丹出多しるまの村山家の持物と

梶原家一妻その合張五近一酒多とわけ事に

美ひりく一馬且まうりとはひる事家の甚き事と方

に書頭とありてま一が枝も糸けりど上五信屋の

山方一妻不商賣用とてけり多しぬ用度の出束

く山方のまのと回及一膝を謝もけり世弟小

か膝がて深穴くくを物一合もと取け寮防町

のか阿が方と構合をましか膝ぐとか田がごとを

らびどのこまをまてまうんせんとませ一は

菱も糸も世家の自由後うめて

をさるる他ち知く

五甲印持物の思合

Handwritten text on the right page, including the main text and marginal notes.

Handwritten text on the left page, including the main text and marginal notes.

かぢしー主人しゅじん友多ともあつたりのあつたりのつひのつひの終はつるる

ふ十じゅう日にちらんらんあつたりのあつたりのつひとつひと推おし業わざーー古ふる支し記き入いのの

せりめ十じゅうあつたりのあつたりの刀やいば守まもりのりの合あ成じやう監けんかかららままんんをを

あつたりのあつたりの二ふたあつたりのあつたりの後あとーー道みちかか晴はるる方かたへへああののひひぬぬきき

ううーーああつたりのあつたりの今いま日にちゆゆりりててかか由ゆがが方かたへへああのの目め撃げきのの

あつたりのあつたりの八はちとと二ふた人にんままくくううままくくかか由ゆ成じやうかかららままんんをを

せりめせりめののああつたりのあつたりの一いちがが三さん人にんのの時ときややああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

山やま方かたののああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのとと途みち中なかああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

あつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりのああつたりのあつたりの

管舟も
月見
さき
物
珍



風
引
物
珍



あつなき
うらな 電燈の 今さら思ひ出

あえ 糸あ
うと 雲が 影を 頭を 照らす 一が 子や ぐん 成る かの まき 地

ナニ 友も 弟より 師が 見え ぬ 実子の 正体 知れ ぬら 輪 堂

いふ 同校の 好身 たり せきり しま 播 氏 氏 家 持 の 子 息

あはれ 弟 弟 一 とも 君 不 忠 あり 彼 人の 生 祖 不 孝 あり

と 思 へ ば 一 つ 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 迎 常 へ 愛 妻 の 復 生 出 生

の小 思 へ ば 二 人 まで あり 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

さう なる に 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば 思 へ ば

あつなき

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

あつなき 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば 一 つ 思 へ ば

素子除室及王位臨命後河不隨者之佛さるるホリ

こんぬ世尊の御心へ老いづらふとも縁をわたり

口にお替りしハタもあのかゝる何所うもありの事

舞づけしお世へまもるわつらふもいづれもひま

マアお世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

あはれぬ世尊の御心へまもる世尊の御心へ

ナラへ 世尊の御心へまもる世尊の御心へ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

一 世尊の御心へまもる世尊の御心へ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

お世へしめりしそらふもいづれもいづれへ

この巻の序一別ち外題も

抄ぶりのあはれ
餘興 春の辰巳園

狂言作
園直画

全部六冊

此巻の序一別ち外題も
此巻の序一別ち外題も
此巻の序一別ち外題も

春色梅見興美巻の拾了

近江家二疎通

蒲田右

衡橙且

道江屋

常陸志
新編

